

# 学校だより

11 インディアナ日本語学校  
No31 (1月)全校生348人

## 新しい友達

5年 水谷 俊貴  
高1 水谷 誠喜



## それぞれが生きること

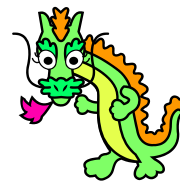
山が美しいのは、そこに生える木々やシダが、それぞれの生き方で生きているからです。木々は、シダの水分補給で生き、シダは、木々の陰で生きることができます。相手のために生きている訳ではありませんが、結果として相手を生かし、相手に生かされています。

人も、楽しく楽に生きようとしても、実際は苦しくて悩んで、惰性で生きるなど、思い通りにならないのが常です。それぞれに生きる中で、子どもには、親や人の愛情がしっかり感じられる年であることを願っています。

- 1 入園申込数: 40人(6日現在)
- 2 3学期授業料納入袋の配付
- 3 小学部、3学期教材の配付
- 4 高校教科説明会案内文の配付
- 5 3学期行事(授業日数: 11日)
  - ①1月 7日: 始業式
  - ②1月21日: 高校教科等の説明会 (中3、高1・2保護者と生徒)
  - ③2月 4日: 新1年生が授業見学
  - ④2月18日: 入園説明会
  - ⑤3月17日: 卒園・卒業・修了式



## 文章を書こう



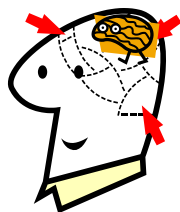
5 年



いわせ じょうた  
岩瀬 丈太

【ぼくのネコ】 ぼくのねこは、かわいいです。ハロウインの日にデッキの下で泣いているのを見つけました。名前は、ウィンウィンです。ウィンウィンは、走るのが速くて人をかむのが好きです。プロックリーが好きで、食べるものに見える物は食べてしまいます。ソファーでつめをとぐのが大好きです。ママがお米をとぐときは、キッチンのすぐそばで見えています。でも、そうじ機の音はきらいです。先週、ウィンウィンが死にそうになりました。何度も何度もはくようになり、ご飯を食べなくなりました。一日中同じ場所でねていました。いつものじゅう医さんにつれて行きましたが、何も悪いところは見つかりませんでした。エマーゼンシーにつれて行ってレントゲンをとると、何かが腸に入っていることが分かりました。手術をして腸から出してみるとプラスチックのパズルでした。ウィンウィンは、かわいくて大切な家族の一員です。

6 年



なかざわ こういち  
中澤 航一

【「感情」の感想文】 ぼくは、茂木健一郎の考え方のすべてに共感しました。もしかしたら、ぼくの祖先も何かに対して不安を持ち、どうしていいかわからず、何もしなかったために生き残り、その結果、今ここにぼくがいるのかもしれない。疑問に思うこともあります。それは、「喜び、希望、安心、悲しみ、不安、後悔、怒りなどのどんな感情も、生きていく上で大切なものです」というところです。悲しみや怒りは、どのように役だっているのか不思議に思いました。自分なりに考えました。もし、悲しみという感情がなかったら、何かがこわれたり、だれかが死んだり殺されたりしても、何も感じないと思います。また、怒りという感情があるからいろいろな事が学べるのだと思います。もし、人を怒らせると、怒った人は、こういうことをされるといやな気持ちになるということが分かります。怒らせてた人も、怒らせる原因が分かります。周りの人も、自分が気を付けることを考えることができます。このように、楽しさをそこなうような感情があるからこそ、最初から出来たり、治ったり、クリアーすることよりも、2倍くらいうれしい気持ちが生まれるのだと思います。

6 年



まつもと えま  
松本 恵菜

【「よだかの星」の感想文】 この物語を読んで、よだかはすごくやさしい心を持っている鳥だと思いました。よだかは、外見がみにくいということだけで鳥たちにきらわれたり、悪口を言われたりしても、悪いようにやり返さないからです。よだかが、かぶと虫やたくさんの羽虫を食べているとき、のどの奥で虫がもがいているのを感じると、「虫は毎晩ぼくに殺される。それがこんなにつらいのだ」と思い、何も食べずに死のうと決心したところも、よだかのいいところだと思いました。しかし、そのあまりにもやさしすぎるころは、私には少しいけないようにも思えます。なぜかという、あまりにも自分のことを主張したり怒ったりしないので、自分をだめにしてしまわないかと思うからです。タカに何を言われても怒らず、だれにも迷惑をかけずに一人遠くの空のむこうに行ったところを読んでそう思いました。この本で一番悲しかったところは、よだかが太陽や星たちに、「あなたたちの所へ連れて行ってください」とお願いするところです。よだかは、きっとみんなのところからいなくなって遠くの場所に行こうとしたからだと思ったからです。この本を、いろんな人に読んでもらいたいと思いました。